
ナルト & サスケにチート（？）転生 ～死亡フラグから逃げ続ける怠惰な日々

リョク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナルト&サスケにチート(?) 転生 ー死亡フラグから逃げ続ける怠惰な日々

【Nコード】

N1018Z

【作者名】

リヨク

【あらすじ】

よくあるチート転生をする事になった二人の少年。ギャグで終るのか?それともシリアスになるのか?

ブログ：ナルト（前書き）

すみません！！何故か知らないんですけど書きたくなる衝動に駆られました！

プロローグ：ナルト

「突然じゃが転生してもらおう」

「「はっ?」」

目の前にいるお爺さんにそう言われた。

よくある二次創作の転生系だな、普通なら幼女やお爺さんなんだろう。

でも目の前に居るのはそんなものじゃない、身長が2メートル80くらい、長身で髭を生やしている初老だったが筋肉が物凄く、気持ち悪さよりも本当にこんな筋肉が実際にあるんだなあと思わせる…。

その眼は紅く光っており顔は3つあり腕も6つあった。

頭には角、どうみても角、角、角!!

「「ぎゃああああああああああああああああああ!!」」

「

「うるさいわっ!」

その瞬間私たちは肉塊に成り果てた。

「ようやく黙ったか」

いいえ、黙らさせられたんです、貴方に。

「まあ良い、ワシは見ての通り神だ」

違っただろ、アンタは神様じゃない。

「まあ、それでな・・・」

その後、私たちは長い話しの時間中に何千回も肉塊にされた。
よく壊れなかったな、心が。

「御主等にはNARUTOの世界に転生してもらっ、そっちはナルトに、こっちはサスケじゃ」

拒否権は無いんですね、でもこのままじゃあチート能力をもらえない。

隣に居る馬鹿は「忍術!？」とか言っている……………。

オタツキーなやつ等ならハーレムとか言うんだろうけど……………普通人である私たちが憧れるものはやっぱりその世界だけの力だろう、
B E A Hなら死神の力とか完現術とか……………。

まあ私も使ってみたいんですけど……………。

「取り合えず、欲しい能力を言ってみよ!!ただし無限の剣製と王の財宝は駄目じゃ、そしてデメリットもあるぞ、まあnarutoと型月関係だけじゃし、色々制限もあるがの」

駄目か、私は王の財宝と騎士は徒手にて死せずが欲しかったんだが……………。

デメリットに関しては注意すれば……………

「ん、俺はF a t e / Z E R Oの狂戦士^{バーサーカー}の宝具、とゲイ・ボルグ後はイザナギを使っても失明しない万華鏡写輪眼かな？後は剣の才能と忍術の才能で」

コイツ、特に考えないで決めやがった！！

「分かったぞ、貴様も早くせよ」

分かりました、だから拳をこっちに向けるのは止めて下さい。

「ならアルトリア・ペンドラゴンが持っていた宝具のエクスカリバーにアヴァロン、カリバーンにプライウエンを下さい、後はナイト・オブ・オーナーとリボルバーを二個下さい、輪廻眼にギルガメッシュの黄金率、才能は剣の才能と忍術の才能で、アヴァロンの不老効果は20超えてからでお願いします」

「お主、中々せこいぞ」

「別に良いですよ」

「あ、俺も追加していいですか？」

「良いぞ」

ヤバイな、あいつ能力を追加しやがりました。

「キャスターの魔術技術を下さい」

「良いぞ、魔力じゃなくチャクラじゃがな」
チートすぎますね。

「なら私も「貴様は後二個しかできんぞ」……………なら話を聞いてください」

そう言つてあの神様？の耳、耳何処にあるんだ？まあ良いです。

「……………貴様、それにするか？」

「無理ですか？」

「いや、ぎりぎり可能じゃ、じゃが本当にその能力しか出来んぞ」

「別に良いですよ」

「よし、じゃあ転生じゃあああ！…！」

あの何でこっちに拳を向けてるんですか？

お願いします、逸らして下さい……………やめてくだ

あ、転生したようですね。

何故分かるって？

今、暖かい水の中に居ます、それが答えです。

そして今スッゴイ頭痛いです!!!

ものすごく時間がたっています。

ようやく生まれたようです。

そして仮面の男がクシナさん、基お母さんから九尾を取り出しました。

この後お父さんが屍鬼封尽を使って九尾を封印するんでしょうが……
……させませんよ!!

アヴァロン
全て遠き理想郷!!!

これを使って九尾とお母さん、お父さんを閉じ込めます、もちろん
仮面の男は外しときます。

「何だコレは!!!?」

仮面の男が入ろうとしていますが無駄です!!!これは第七次元までの
干渉を全てシャットダウンする代物です!!

人柱力であるお母さんを完全に癒して治し、その後お父さんによつ
て完全に封印、私は人柱力にはなりません!!

でも大丈夫です!!!私とお父さんがお母さんを守りますよ!!!

……あれ?九尾が大人しい。

「…………クシナ、この九尾はナルトに封印する事にするよ」

何ですとー!!!?

その後、結局原作どおりとはいかなくても九尾は封印されました、わたしに…………。

三年後

「……………」

私は今ものすごい落ち込んでいます。

何故って？そりゃあ原作どおりじゃなくお父さんとお母さんはちゃんと生きていますよ!!

まあ九尾は何故か協力的です、アヴァロンをちらつかせたら落ち着きました。

ですからアヴァロンの欠片を渡してとつと九尾をコントロールしました。

まあ良かったんですが…………。

自分の顔が何故かFateのセイバーっぽいんですよ…………。

流石に全てが同じなわけではないです、両親の特徴はちゃんと持つてそしてセイバーっぽくなったんです。

それでも男の子です。

かなりショックです!!

『まあ諦めるんじゃない』

「嫌ですー!!!」

中に居る九尾にすら同情されるしまっ……………。
やってられません!!!

「いつてらっしやーい」

「行つてきますー!!」

お母さんにそう言われて私も返しちゃいます、これは癖です。
絶対に男らしく悪になつてやりますー!!

『いや、無理じゃな』

うるさいですー!!

私は家を出たあと、川原を歩いていました。

「はぁ、本当にこの口癖と女顔はどうにかならないんでしょうか?」

『だから無理じゃろ、諦めよ』

「諦め切れませんよ！！私はの容姿でこの口調なら間違いない女の子、もしくはオカマデス！！私はもつとだんδειになりたいんです！！マスター、カミユをロックで頼む、って言うような大人になりたいんです！！はぁどぼいるどになりたいんです！！！」

『無理じゃ、諦めよ、今のままだったらオカマ直行じゃ』

「嫌です！！私にだって好きな女の子が出来て付き合えば小宇宙^{コスモ}が出来るんです！！男の娘じゃない！！ダンディでハードボイルドな男に！！！」

『……………がんばれ』

ついに諦めましたか……………、ハーレムとは行かなくてもやっぱり彼女くらいは欲しいですね……………。
絶対に手に入れて見せます！！

「お嬢ちゃん……………ハアハア！！僕の家……………ハアハア！！来ないかい……………ハアハア！！！」

何ですか？アレ……………明らかに危ない人が居ますよ。

「いや、俺男何だけど……………」

「なにぃ！！？男の娘だとお！！？それはそれで……………ハアハア！！やっぱり一緒に来ないかい？」

……………

『おい、何で黙る?』

「去勢します」

『……………南無』

取り合えずあの子を助けましょう。

「ちょー!! 放せー!!」

「いいから僕と一緒に快樂の海へと」そこまでですよー!! ナルト君スクリューキックー!!!」ぶへー!!!!!!」

おお!! 新技が決まりました!!
変態は木にぶつかり、気絶しました!

「取り合えず、コレで」

そう言っ取り出したのはクナイ

「えいッ!」

「アッ……………!!」

アハ! 良い悲鳴!!

『……………残酷だな』

九尾は股を押さえながらそう言いました、精神世界って簡単に分か

るんですね。

「…………セイバー？」

…………何故それを知ってるのか、まさかサスケか？
そう思いながら後ろを見ました。

「……………輝夜？」

髪は短いですが東方の輝夜姫でしたね。

まさかの予想外でしたね、まさかサスケも男の娘に成ってるとは…………。

取り合えずサスケには髪を伸ばすように言いました。
いつか女の子になる薬を開発してあげますからね！！

そう思いながら家に帰ろうと思いました。

「……………すまんのう」

……………家の中から三代目のおじいちゃんの声？
取り合えず耳をつけます。

「と、言うわけで滝隠れの七尾の人柱力を預かる事になったのじゃ、ミナト、お主に引き取ってもらいたい」

「良いですけど……なんですか？」

「ナルトならばきっとあの子の心を開けるはずだからな、わしがもう少し早く行っておれば……」

死亡フラグ？

プロローグ：ナルト（後書き）

次回はサスケの話

プロローグ：サスケ

あ、俺現サスケ。

取り合えず転生に成功したのはいいんだけどさあ……。

「何で輝夜？」

何で容姿が東方の蓬莱山輝夜？

俺は現在男の娘……。

ちなみに写輪眼は使えません、どうやら修行で会得するらしいです。万華鏡に関しては普通の会得した後すぐに会得できるらしいです。

ちなみに宝具のアロンドイトは俺が望めばすぐに出てきました。ですが戻せません。

ナイト・オブ・オーナーやフォー・グロリーワンはコントロールできます。

「ちくしょー!!」

そう叫びながらヨーヨーを振り回してます。

ナイト・オブ・オーナーを使えば即席の宝具になります、凄いです。ランスロット。

取り合えずヨーヨーも宝具になってるけど、実際重さが無いから大した武器にはなってないんだよねあゝ。
取り合えず鉄製のヨーヨーでも作るか。

「……………四代目火影が生きている事はびっくりしたな」

、今はナルトか……………。

アイツがアヴァロンを欲したのってコレに使うためか、なんだかなだで一番考えてるんだよね。

「……………あの時俺は泣いてばっかだったからなゝ、せめて前世の分を返さなきゃな」

前世での恩返し、まあ簡単なものかもしれないけど何度も命を救われた分は返さなきゃな。

取り合えず俺は川原の近くに行く事にした。

「お、お嬢ちゃん……………」

「げ……………」

取り合えずその後の事はナルトがやってきてスクリューキック、偶然水月に直撃、その後ヴィーナスの刑……………

「ふうゝ、何かスッキリしました!!」

そう言つて血で濡れているクナイを川に捨てる、俺を攫おうとした変態は男の大事な物を持つて病院に……………

南無。

「まさかセイバーみたいになってるとは思わなかったよ」

「いえいえ、まさか貴方が私以上に女顔だなんて……………ププッ！！」

「聞こえてるぞ」

ナルトの性格は前世と同じく月姫の琥珀さん、もしくはF t a eのカレイドルビーだ。

しかも本気で魔法少女を作ろうとした前科を持っていやがる。

洗脳と調教に関しては鬼才、まあこれは後で分かった才能だからしょうがないけど……………。

最初の才能はありえない、つか異端どころか異常すぎる。

「髪の毛は伸ばしてくださいね！！絶対ですよ！！」

あの顔は絶対に何か企んでいる、間違いない！！

だが俺にはアイツに勝つ要素がない、成長して戦う事はできるだろうがああ状態になったら……………

「ワカリマシタ」

でも逆らえない……………、なんてチキン体質なんだ……………。
恐らく俺は絶対に勝つことなんて出来ないだろう……………。

「そっぴや九尾は？」

「ちゃんと睨めましたよ、憎悪に囚われた殺意なんて軽いだけです

し」

「やっぱりか……………」

何だかんだで最強なんだよなこの化物は……………。

「じゃあまた会いましょう、貴方はどうせハーレムを作るんでしょ
うけど私が必ずそのフラグをへし折って見せます!!」

「不吉な事を言うな!!!」

本当にこいつは何を考えているか分からない……………。
つか恐ろしい、何で俺がハーレムを作る前提なんだよ」

「喋ってますよ」

「しまった!!」

やば、何時の間にか喋っていた。

「やっぱり貴方は素直なんですネ」

「あんたは嘔吐きだけだな」

やっぱり前世から変わってない。

「では、さよならです、死亡フラグには気を付けてくださいね」
そう言ってナルトは去っていく。

「……………そうだな、浮かれる時間は終わりだな……………」

転生した余韻はもう終わりだ。

どうやって原作を崩壊させていくか……………

子供の扱いは子供？（前書き）

今回は短いです。

子供の扱いは子供？

取り合えず私は庭で遊んでいます。

まあお父さんから教わった木登り練習法をやっています、これが意外と難しい！！

私のチャクラがあつという間に無くなっています。

「アハハハハ、これは大変！！DEATHネ！！」

ただ繰り返しているとどんどん使うチャクラが減っていきます。
この調子で強くなりますよ。

「アハ」

「ナルト……！！……何やってるってばね……」

「見て分からないんですかお母様！！芸術ですよ！！」

そう、私が木登りするときに失敗した木をクナイで抉ったり削ったりして彫刻を作ってるんですよ！

「どうですかコレ！！熊さんですよ！！」

「………凄いてばね、でもナルト！もうこついうのはしちや駄目だってばね！！」

怒られました。

今度からは自嘲します。

「さて、後はコレに二スを塗ってと」

コレで完成です！！

まあまだ時間がかかりますが……。

「さうて、楽しみですですね」

同じ人柱力ですからね、そりゃあ楽しみになりますよ！！

と、ついさっきまで楽しみにしていましたが今見たのでちょっとなえました。

ここまで怪我が酷いとは思いませんでしたからね。

傷口の化膿は見られませんがやはり酷い怪我です。

それ以前に

「私を見る目がかなり怖かったですけど」

『お主が幸せなのが気に入らないんじゃないのか？』

あ、九尾。

まあ気に入らないのは分かりますね。

「同じ人柱力なのに私が幸せだからですね」

『やはりな』

まあ分かりますよ、いくら四代目の息子と言っても私は九尾の入れ物ですからね。

「……………少し考えすぎましたかね？」

『いや、どう見ても考えてないじゃろう』

「甘いですね、九尾。封印されている間ぬるま湯にでも浸かっていたんですか？」

こんな事言うまでも無いんですけどね。

「戦場では考えるな、感じろです」

さて、あの子に会いに行きますか！

『お主は何時も馬鹿じやの』

「馬鹿で良いですよ、そっちの方が楽しいですしね」

それに前世の能力がさらにパワーアップされてますし……………今の私は本物の化物ですしね。

人柱力なんて尾獣が無かったら普通ですし、ですがそれでも私は化物なんですよね。

「まあ教えてあげましょうかね」

『七尾も可哀想になるな……………』

失礼ですね。

「……………なんで」

「何でじゃありませんよ、これから家の子になるんですからプレゼントです」

何で私に優しくするの？だまされないよ、どうせ裏切るんじゃない？

「……………流石にその目で見られるのはちょっと辛いんですが……………」

何なの、あなたは……………。

「君と同じ化物だよ」

お嫁さん確保!! (前書き)

今年最後の更新です。

今日はガキの使いを見て笑いまくりです!!

お嫁さん確保!!

「また封印か……………」

先ほど封印から開放されたときに洗脳され、そしてすぐに開放された瞬間の光景……。

あれは美しかった、何百に分かれる光……。

「どうせこの小僧も……………」

「お腹減りましたね〜」

「!!!？」

何じゃこの小僧!!ワシを見てお腹減りましたね〜、じゃと?その目を止める!!ワシは食えんぞ!!

明らかにワシを食用としてしか見ておらん!!

「わしは喰えん!!分かったか小僧!!」

「大丈夫ですよ、生きているものは大抵喰える自信がありますから〜」

「やめろ!!かじるな!!」

駄目だコイツは……色々と教育しなければ……

「と言うわけだ、七尾……」

「まさかお前がこんな子供に扱われてるとわな、一尾の狸が見たら笑う」

「大丈夫じゃ、今なら笑われても動じない自信がある」

「何があつたのだ」

「ワシの価値観を否定するような化物じゃ」

そう、ワシすら恐れる（食物連鎖的な意味合いで）化物の頂点が今のワシの宿主……。

「本当に………なんでこうなってしまったのかのお」

まあ今はあの鞘の光に当てられてワシの心を癒しておるがのお………
本当に困ったやつじゃのお………性格はまだ良い方じゃが………。

「きゃー！！可愛いです！！！」

何この娘可愛いです！！私の夢である魔法少女計画の前段階です！！
褐色系美人です！！

「放して……………」

「いやです！！フウちゃん可愛すぎです！食べてしまいたいくらい
ですよ（性的な意味ではなく食物連鎖的な意味合いで）！！」

「何か怖い……………」

あ、私の癖が出てしまいました。

でもフウちゃんってやわらかいし美味しそうな匂いですし…………フ
フフ

まあ六割方カニバリズムは自粛してますよ、前世での話ですが。

「怖くないですよ」

「ナルト、犯罪者みたいだっばね」

「失敬な！！」

酷いでお母さん！私は単純にフウを私のお嫁さんにしたいだけなの
に！

「酷いでお母さん！私は単純にフウを私のお嫁さんにしたいだけなのに！」

「え？」

「ナルト、この子気に入ったの？」

あれ？言葉にしていましたね、ですが本心ですから！！

「ええ、そりゃあこんなに可愛い子を私のような女顔で童顔で……
…（泣）」

あれ？目から汗が……うう……。

「わ、私で良ければ……」

「ありがとうございます……！」

キヤー！！やっぱり可愛いです！！アハハハハ！！やっと私にも春
が来ました！！小宇宙コスモがああああああああ！！！！

『……………で、後悔しているのか？』

『後悔はしとる、じゃが……………』

「憎しみなんてものに縛られている貴方では私には勝てませんよ、九尾」

「キサマアアアアアアア！！！！！」

「化物は喋らない、と言うのは嘘ですね、最近の化物は喋りますからね、私のように」

『ナルトの相棒になった事は間違いではない』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1018z/>

ナルト&サスケにチート(?)転生 ~死亡フラグから逃げ続ける怠惰な日々

2011年12月31日18時54分発行